

## Il Farneto イル ファルネート

レッジョエミリアとモデナの間、南側に位置するカステッラーノの町。全くゼロの状態からこのワイナリーをスタートさせたマルコ ベルトーニ、彼には決して譲れないこだわりと強い意志があった。

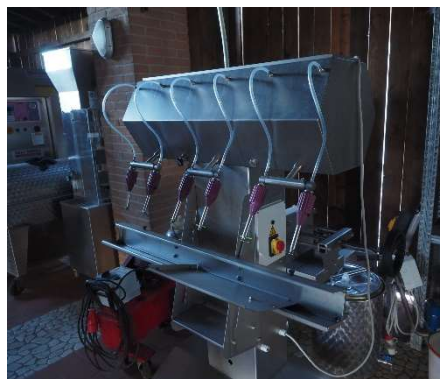
2000年、町はずれの丘陵地(Collina)、第二次大戦前にはブドウ畑が広がっていた土地でありながら、現在は放棄地とされている土地を手に入れたマルコ。標高250mの緩やかな斜面は、昼夜の寒暖差、そして強い粘土質、乾燥した風とまさに恵まれた環境が整っていた。元来ブドウ農家ではなかったマルコ、しかしながらサッスオーロの町で幼い頃から見てきたワイン造りに強い憧れを持ってきた。地域伝統のランブルスコ、そして彼が最も魅力を感じていた地酒ともいえるベスマイン(マルツェミーノの古い呼び名)、そしてスペルゴラ。2001年より、段階的に植樹を行い、現在8ha。黒ブドウはマルツェミーノ、カベルネ、ランブルスコ、グラスパロッサ。白ブドウはスペルゴラ、ソーヴィニヨンブラン、シャルドネを栽培。効率を考えた近代的な農業を嫌うマルコ、あくまでも手作業を中心とし、ビオディナミ式の農業を取り入れつつ、自然環境を尊重した循環型の栽培を追求。畑では一切の農薬、肥料(堆肥さえも)を使用せず、ボルドー液についても、畑を開始した2001年より1回も使われたことがないことに驚かされる。「この年は元来湿度の問題が全くと言っていいほど起きない、そのためカビの問題が起きる心配がないんだ。」そう話すマルコ。使用されるのはビオディナミ式の調剤を中心に、ハーブの煎じ液とごくわずかな硫黄物のみ。強い粘土質のため、緑肥と数年に一度土地を好転する必要はあるものの、それ以外は全くと言っていいほど、手をかけない(不必要な剪定や除葉、選果も行わない)と語るマルコ。「自分にとってマルツェミーノやスペルゴラは、とても身近なワインだった、それこそ常にテーブルにある、そんな存在。だから無為に凝縮したワインを造ることよりも、当時当たり前にあった景色。伝統を残していきたいんだ。」そう話す彼。あくまでもテーブルワインとしての存在を求め、反対を言えばそんな当たり前の事をさなくなりかけている現実、逆らうこと。これこそが彼の揺るぎない信念ともいえる。

醸造においては、少なからず温度の管理はするものの、不必要な酵母添加を行わず、ごく最低限の亜硫酸を使用するのみ。「ここ最近、ようやく品種として確立されたスペルゴラというブドウ、結実のまばらさと、粒の小ささ。そして最も特徴的ともいえる強い酸を持ったブドウ。」、梗の部分まで完熟させたスペルゴラは除梗せずにそのまま压榨。果汁のみの状態で醗酵を行い熟成。2013年よりリリースされたフリッツァンテは、醗酵が終わったのちにボトル詰め。スペルゴラから造ったモストコット(煮詰めた果汁)を少量添加し瓶内二次醗酵を行う。その後スポックカウーラ(オリ抜き)せずにリリース。

マルツェミーノは屋外にある大型のセメントタンクにて約2週間のマセレーション(果皮浸漬)、野生酵母による醗酵を促す。压榨後春まで、外気の寒さを利用してオリ引きを行う。使い古した木樽(500L)に写し12か月の熟成。酸が非常にデリケートで、栽培の難しいとされるマルツェミーノでありながら、驚くほど純粋で直観的な味わい。そして、すべてのワインに共通する骨太な酸と果実的な雰囲気



気。醸造的な未熟さを埋めるのに十分な素材のよさ。素晴らしい信念と情熱を持った造り手の一人



#### ※補足・マルツェミーノについて

マルツェミーノはイタリアでも広い地域で栽培されている。起源とされているのはヴェネト周辺、そこから東はフリウリ、トレンティーノ、ロンバルディア、エミリアロマーニャとパダナ全体で栽培されているブドウ。歴史も古く1700年代にはもう造られていたという記録もあり。有名なものでいうと作曲家のモーツァルトが愛したワインがマルツェミーノだったといわれている。(事実彼の書いたオペラ、ドンジョヴァンニの中で出てくるセリフに「che si versi l'eccellente Marzemino(マルツェミーノはなんてすばらしいんだ)」とある。

しかしながら、果皮の持っているタンニンやアントシアニン(色素)が少ないこと、そして果実酸が少ないこと、結実量が多く糖分が低くなりがちなマルツェミーノ。量り売りが主流であった1960年代までとは違い、ボトル詰めが主流となった近年減少の一途をたどっている。地域でもカベルネなどの国際品種が主流となっている。

造り手のマルコは、幼いころのサッスオーロのワイン造りを存続させたいという気持ちを持っていたこともあり、近年人気のない子のブドウにもう一度光を当てようと決意。「タンニンが少なく、酸が弱いブドウ。決して偉大なワインを造り事は出来ないといわれていたとしても、元来偉大なワインなんて誰も作ろうとしなかった。スフーズ(量り売り)として、飲み心地の良さや飽きの来ないニュートラルな味わい。そして果実そのままの表現こそが、このブドウの良さ。」穏やかな酸とフレッシュで軽いタンニン。口に含んだ時の抵抗のない果実そのものの味わいを持ったワインです

## Il Farneto イル ファルネート

エミリア＝ロマーニャーレッツジョ エミリアーサッスオーロ

ワイン名	ヴィンテージ	種類	容量	メモ
<b>Frisant Bianco</b> フリザン ビアッコ	<b>2022</b>	白 微泡	<b>750ml</b>	スベルゴラ90%、ソーヴィニオンブラン10%、樹齢10~15年。除梗せずに压榨、果汁のみで野生酵母による醗酵を促す。冷蔵保存していたスベルゴラのもスト(果汁)加え、再び醗酵が始まってからボトル詰め。春先の気温上昇を利用して瓶内で醗酵を終える。オリぬきせずにリリース。  キレのある酸と豊かな果実、フレッシュでいて味わい深いフリッツァンテ。
<b>Brut Nature</b> ブルット ナトゥーレ	<b>22</b>	白泡	<b>750ml</b>	ソーヴィニオンブラン60%、シャルドネ40%、樹齢10~15年。除梗せずに压榨、果汁のみで醗酵。ボトル詰めの前に保存していたもストを加え、瓶内二次醗酵を行う。オリとともに瓶内12カ月の熟成、オリ抜きをしたのちにリリース。二次醗酵の酵母は使わず、ドサーージュも行わない。トードクラッシコ(瓶内二次醗酵)のスプマンテ。2022は果実が完熟しヴォリュームを感じ、酸は穏やかでガスもデリケート。豊かな果実味と旨味、ドサーージュなしでこの味わいは毎度驚かされます。
<b>Mary of Modena</b> マリー オブ モデナ	<b>22</b>	ロゼ泡	<b>750ml</b>	ソーヴィニオンブラン75%、シャルドネ15%、テルマリーナ10%、樹齢10~20年 除梗せずに压榨、果汁のみで醗酵。ボトル詰めの前に保存しておいたテルマリーナのもスト

(果汁)を加え、瓶内二次醱酵を行う。12 カ月以上の熟成、オリ抜きをしたのちにリリース。二次醱酵の酵母は使わず、ドサーージュも行わない瓶内二次醱酵。

例年通りの酸の美しさはもちろん、力強い旨味と香りをもつ魅力的なヴァンテージ。

## Giandon Bianco

ジャンドン ビアッコ

2023 白 750ml

マルヴァジア ディ カンディア 100%、樹齢 30 年。収穫後、除梗(一部除梗せず)して果皮と共に 1 週間、セメントタンクにて醱酵が始まる。压榨後、そのまま 6 か月の熟成。果皮に特徴のあるカンディアの個性を表現した白。ロツソと同じく、気兼ねなく飲まれる土地の味わい。

2023 は雨が多く非常に難しいヴァンテージ。

収穫量は少なくなったものの、ブドウ自体のクオリティを落とさないだけの畑での仕事量を感じるブドウのクオリティ。カンディア特有の強い果実味とアロマティックさは、例年に比べると控えめな印象ながら、美しい酸と果実のバランス感が素晴らしい、これまでと比べても明らかに頭一つ出ている素晴らしい味わい！果皮の厚いカンディア由来の果実とタンニンが強すぎず、酸と香りの一体感、飲み心地も素晴らしい嬉しいヴァンテージになりました！

## Giandon Rosato

ジャンドン ロザート

2021 ロゼ 750ml

ランブルスコ サラミーノ 50%、スベルゴラ 25%、他。樹齢 10~15 年。

収穫後、黒ブドウは除梗し果皮と共に短時間のマセレーション。プレスを行い果汁のみで醱酵が始まる。途中スベルゴラのみを加え醱酵、タンク内で 6 か月の熟成。

軽いタンニンと強めの色調、非常にドライで食べ物を欲する、食中酒としてのロゼ。

## Giandon Rosso

ジャンドン ロツソ

2021 赤 750ml

マルツェミーノ主体、マルボジェンティーレ、ランブルスコグラスパロッサほか。除梗し果皮と共に醱酵。セメントタンクにて発酵・熟成。気兼ねなく飲み続けられる土地の味わいを意識し、気軽な飲み口を追求したワイン。

## Spergle

スベルグレ

2022 白 750ml

スベルゴラ、樹齢 5~15 年。収穫後、除梗して压榨しステンレスタンクで緩やかに醱酵。一部のブドウ(10%程度)は果皮と共に木樽にて 1 カ月、醱酵が終わり 2 つを合わせてタンクにて 6 か月熟成。オリ引きののちのボトル詰め。非常に酸の高いスベルゴラというブドウの個性はもちろん、果実の凝縮感、味わい深い白。

## Gabian Bianco

ガビアン ビアッコ

22 白 750ml

フレーバー

ワイン 白

微発泡

白ブドウのヴァイナツチャ(スベルゴラ、マルヴァジアディカンディア、2022 年収穫)、水、レモン。プレス後、まだモストの残るヴァイナツチャのみで再び醱酵。ボトル詰めの前にモストを加えピン内再醱酵。アルコールは 5%のスムーズすぎる口当たり。

## Gabian Rosso

ガビアン ロツソ

22 赤 750ml

フレーバー

ワイン 赤

微発泡

黒ブドウのヴァイナツチャ(ランブルスコ、マルツェミーノ、2022 年収穫)、水、レモン。プレス後、まだモストの残るヴァイナツチャのみで再び醱酵。ボトル詰めの前にモストを加えピン内再醱酵。アルコールは 5%のスムーズすぎる口当たり。

## Frisant Rosato

フリザン ロザート

2021 白 750ml

ロゼ

微泡

ランブルスコ グラスパロッサ、サラミーノ主体、スベルゴラ他。樹齢 10~15 年。白ブドウを加えて共に压榨し醱酵。ランブルスコのみを加えピン内再醱酵。古典では白ブドウを加えていたという、ランブルスコの原点ともいえるロゼ。

## Frizant Rosso

フリザン ロツソ

2020 赤 750ml

赤

微泡

ランブルスコ グラスパロッサ、サラミーノ、マエストリ主体、トレピアーノ他白ブドウ。樹齢 10~15 年。黒ブドウは約 2 日の浸漬、白ブドウを加えて共に压榨し醱酵。ランブルスコのみを加え、ピン内再醱酵。飲み心地抜群のランブルスコ。

## Berzmein

ベルツメイン

2019 赤 750ml

赤

マルツェミーノ、樹齢 15 年。除梗して約 2 週間果皮と共に醱酵。冬の寒さを利用してオリ引きを行い、木樽(トノー)に移し 12 か月の熟成。オリ引きの後にボトル詰め。タンニンが少なく、テールワインとして親しまれているマルツェミーノ。

## "AZÉ"

Condimento Balsamico

— バルサミコ 250ml

バルサミコ

コンディメント バルサミコ

マルツェミーノ 60%、スベルゴラ 20%、カベルネ ソーヴィニヨン 20%。

5 年熟成をベースに、3 年、7 年とブレンド。糖分や酵母、保存料、着色料無添加。ブドウ以外何も加えられていないバルサミコ。

---

## God Save the Wine

ゴッド セーブ ザ ウィン

**2022**

ロゼ？  
微泡

**750ml**

マルヴァジーア ディ カンディア 30%、ランブルスコ マエストリ、ランブルスコ サラミーノ、ランブルスコ マラーニ、樹齢20～40年。収穫後、白ブドウは果皮と共に10日程度、黒ブドウは2～3日、別々に果皮と共に醗酵を始める。压榨後にアッサンブラージュ、醗酵を終える。冷蔵保存しておいた、スベルゴラのモストを加えてボトル詰め。ビン内再醗酵。ランブルスコをはじめ赤ワイン消費の落ち込みに対して、独自のアプローチで挑戦した新しい飲み心地と気軽さを意識した弱発泡ワイン。白ブドウのタンニンに黒ブドウのフレッシュさ、そしてガスは控えめで素晴らしい飲み心地！なんとも新しい味わいのフリッツァンテ。

---